NEWS & TOPICS

保育フェスティバル

保育フェスティバル委員長　**泰田久史**

今年度の保育フェスティバルは、10月22日（土）と12月17日（土）に開催致しました。1回目は秋の忍ヶ丘祭期間中に本学の国際交流センターで行いましたが、学園祭に合わせた開催はすっかり定着した感があり、会場内は子ども達の笑顔で溢れていました。

これまでの保育科での学習の成果を活かし、グループに分かれて工夫したプログラムを展開するこの企画は、学生にとっても貴重な体験です。実施後のアンケートでも利用された方から、たくさんの喜びの感想とともに、学生たちへのエールが寄せられていました。

2回目は宮交シティ内の紫陽花ホールで開催しました。初めての会場であったことから来ていただけるか不安でしたが、例年と変わらぬ来場があり胸を撫で下ろしました。会場もかなり広く使えたため、のびのびと動き回る子ども達の姿を見ることができ、学生たちも達成感を得ることができました。

今後も本学の特色を生かし、さらに地域の方々にご利用いただけるよう頑張りたいと思います。

「親子ふれあい遊び」

「汽車に乗ってGO!」

平成28年度地域交流推進委員会より

地域交流研究センター委員長　**東真美子**

平成29年1月28日、本学の国際交流センターにおいて今年度の地域交流推進委員会を開催した。本学教職員以外にも、学生がボランティア活動・地域活動でお世話になった各機関から10名がご出席くださった。委員会では、代表学生が今年度行ったボランティア活動・地域活動を発表し、出席者からご意見をいただいた。

どの活動も、学生の成長が感じられる素晴らしいものであったが、その中でも特に注目を集めたのは、「ボランティアⅠ」で今年度初めて試みた課題解決型学習班による活動であった。この活動は、学生自身で地域の課題を見つけ、それを解決していくものである。清流園には複数回訪問し、前回の反省をもとに次回の訪問の準備をするという問題意識をもった主体的な行動がみられた。また、「西新町さんさんクラブ」の清武駅清掃やクロス張替え作業に参加し、地元の方たちから様々なことを学んだということ、清武地区の乳幼児子育て環境の調査をするために「子育て支援センター」等に出向いて現地調査をしたことで、子育て支援関係の予算がその必要性に対して少ないと感じたこと等が学生により発表された。

学生は、地域の方たちのあたたかさに支えられ、地域に貢献できる人材として育てていただいていることを再認識した会であった。

現在の就職状況

就職指導係長　**田村広美**

企業は厳選志向が強く、昨年度同様に厳しい就職戦線となっています。厳しい就職戦線を打破するには、企業訪問や説明会参加等の各自の積極的な就職活動が必要です。
また、一次突破の筆記試験や自己表現の重要性を考え、準備をしておく事も大切です。

保育園・幼稚園・施設等は昨年度同様に求人数が多く、年内に就職希望者の多くが内定しています。まだ決定していない学生の皆さんの諦めずに挑戦する活動を期待します。

卒業式のご案内

式は、卒業証書・学位記、修了証書授与式という形で以下のとおり挙行されます。

多数の保護者の参列をお待ち申しあげます。式終了後、卒業生は教室に別れて学級主任から証書等を受け取ります。

どうぞ保護者の方も教室にお入りください。

日時　3月19日（日）10時～　　場所　本学体育館

後援会総会のご案内

後援会総会は、以下のとおり入学式終了後に行われます。

決算・予算の承認、役員の選出を予定しております。

日時　4月7日（金）11時30分～（入学式終了後）

場所　本学体育館

平成27年度　宮崎学園の財務状況等を本学ホームページに掲載しております。

発行 ●宮崎学園短期大学後援会　　発行責任者 ●奥津　尚子

2017 Miyazaki Gakuen Junior College　宮崎学園短期大学後援会

3 後援会だより

March 2017 Vol. 32

新校舎並びに周辺の整備が完了しました。

やめられない、とまらない

学長　**宗和　太郎**

人間は理性の動物だと言われるが、後悔は先に立たない。「ついやってしまった！」は枚挙にいとまがない。ネット、スマホのゲーム、衝動買い、食べ過ぎ・飲み過ぎ、売り言葉に買い言葉、あるいは「嫌です」の一言が言えない。「やめられない、とまらない」のTVコマーシャルが頭に浮ぶ。人間は理性の前に、感情の動物であり、習慣の動物なのである。

自律するというのは、感情そして習慣に流れる行動に思考判断によるストップを入れることである。「懲りない」「学習しない」のは、思考判断に基づく自分のコントロールが訓練されていないということがある。

自分をコントロールすることができるようになるのが、大人になることである。大人になってもなかなか我が身はついて行かない。カントは、いつまでも大人になれないのは、思考判断スイッチを入れない怠け癖と臆病のせいであると言った。

怠け癖、臆病さには自信があるが、自律の自信はない。できなかった失敗は山ほど浮かぶのに、「やればできる」の自信が身についていない。失敗は十分だ。やってみたい、やればできそうな難しさに挑戦して、自分に自信をつけさせていくのだ。例えば、いきなり禁煙でなく1週間の喫煙本数を減らす。スマホを見る時間帯を限定する。衝動買いにストップをかけた回数を増やす、腹八分目の日を作る。「ごめんなさい」「ありがとう」を1週間で言えた回数を増やす。そうして自分をコントロールする自信を育てていく。そして1週間に1回でも自分を振り返る時間を作り、思考判断スイッチを入れて、反省・改善事項を見つけていくのである。反省改善を活かすことができるようになれば、自律度は高まっていく。

本学の建学の精神「礼節・勤労」は人間として大切なことを教えてくれている。

礼節は、人間尊重の精神にたち、自他の立場を考え、自分を律することである。勤労は努力して自己を高め、社会に貢献することである。怠け癖と臆病を克服したい。

輝ける忍ヶ丘（学生の成長）

保　育　科

保育科長　**野坂　　敬**

新入生が入学してから1年が過ぎようとしています。初めての大学生活に戸惑う不安げな姿だった学生たちも、ようやく自分らしさを取り戻して、「夢」の実現に向けて歩きはじめました。植物が種から芽を出し、双葉を広げ、次々と枝を出し成長していく姿さながらに、日々大きな成長を見せています。保育士は、人としての一番大切な幼児期の基礎の部分を預かり、心身ともに成長を支援する重要な専門職です。「かわいい」、「大好き」だから保育士にではなく、専門職としての知識・技術が求められます。入学当初は、子どもを前にして声も震え、動きが取れずに立ち尽くしていた彼らは、今では、はじけるような笑顔と柔らかな身ごなしで、子どもの動きも輝いています。この成長を見ると、保育士になりたいという「夢」の実現とは、他の学びとは大きく違っていることに気づきます。保育士をめざし卒業した9,300余名の夢の実現が、輝きとともに現在も続いていることに感動を覚えています。

保育科1年
速見　まどか
（宮崎南高校出身）

保育科での一年を振り返って

保育科での1年を振り返ると、通常の授業だけではなく「実習前指導」の内容からも、保育に関する知識や考え方など、多くのことを学ぶことができたと思います。実際の保育現場では、子どもたちと触れ合うことで、実習前に学んだことの再確認ができました。そして、その中で学んだことが2つあります。

1つ目は、自分の感性を磨くことの大切さです。実習の時に自分だけの世界で物を見ていて、子どもたちが発した言葉に「はっ」とさせられたことがあり、子どもと関わる中で、豊かな感性を持つことが大切であるということを教えてもらったからです。このことから、1つの視点だけではなく、他の視点からも物を見ることを忘れてはいけないことを学びました。2つ目は、何事にも一生懸命取り組むことです。授業・実習を行う時に、手を抜かず一生懸命取り組んだ経験が、保育の知識や技術へと繋がることが分かったからです。授業も実習もこれから辛いことがあるかもしれませんが、それを乗り越えてこその新たな発見があると思います。残り1年でもっと積極的に学習に取り組み、子どもたちをしっかり理解できる保育士に1歩でも近づきたいと思います。

専攻科（福祉専攻）

専攻科（福祉専攻）主任　**花畑　明美**

児童福祉から高齢者福祉まで、まさに「ゆりかごから墓場まで」の学習をしている本学の専攻科（福祉専攻）の学生は、保育科卒業後、さらに専攻科での1年間で大きく成長します。

専攻科進学当初から学内での講義や演習にどの学生も必死に取り組む姿があり、みるみるうちに年４回の実習に役立てることができるようになります。特に医学的知識や社会保障制度等の学びについては真剣に目を輝かせ、家族や周りの人々への指導もできるほどになります。

今、介護福祉人材の不足が叫ばれる状況の中、本学専攻科（福祉専攻）の学生は、非常に高い評価を頂いており、今年度も12月には就職率100％を達成できました。

見事に1年間で大きく成長し、福祉人材の一員として歩みはじめます。

専攻科（福祉専攻）
中村　文映
（日向高校出身）

専攻科での一年を振り返って

この一年間、何かあるたびに助けてくれた友人や温かい言葉で背中を押して下さった先生方のお陰で、笑顔で充実した日々を送ることができました。また、介護に関する専門的な学びを通して、相手を尊重する姿勢や寄り添う姿勢、人は互いに支え、支えられる関係にあることなど、介護福祉士に限らず人として大切なことを学び、価値観を深めることができました。また、実習を通して素敵な方々と出会い、貴重な体験ができたこの1年は、これから社会人になるうえでの土台を作るための大切な時間だったと思います。これまで支えてくれた学友との思い出を励みに、お世話になった方々への感謝の思いを忘れずに、夢を叶えられるようこれからも努力していきます。

現代ビジネス科

現代ビジネス科長　**久保　良一**

「引っ込み思案だったけど人前で話せるようになった」、「質問に対して手を挙げて発表するようになった」など、いろいろな場面で自分の殻を脱ぎ捨て活躍する姿を見聞した1年でした。

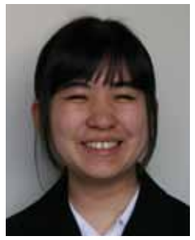
現代ビジネス科の学生は、激動する多様化したビジネス社会で生き抜く力を身に付けなければなりません。そこには、当然、ビジネス現場でのコミュニケーション力や表現力が必要であり、仕事の内容を相手に伝え、理解してもらいながら経営戦略を練っていくことが重要になります。「笑顔で、元気で、ハキハキと」の3つを学科の公約として掲げ、メリハリのある教育の実践に努めてきたところです。学内ではビジネス教育の基礎や応用を学び、学外では各事業所の企画運営やPOP広告、実習体験などを実践してきました。また、各界から講師を招聘して、「地域貢献」、「キャリアデザイン」などの含蓄ある講話をいただきました。その結果、自信を持って人前で話せる、笑顔でハキハキと応対できる人材に育つ芽が緒についたと感じています。

現代ビジネス科
医療事務・医療秘書コース1年
吉永　莉乃
（宮崎学園高校出身）

思考の芽を培ったこの一年！

宮崎学園短期大学に入学して、報告や連絡をすること、書類の整え方など、様々なことに対して指導を受けるようになりました。今までこのような事を意識せず、あいまいに過ごしてきた私は、指導されることに納得できませんでした。しかし、これから社会に出ていく自分の事を考え、周りの人とのコミュニケーションをとっていく中で、どのような小さな気づきも大事なことだと思うようになりました。そして、自分の中で当たり前だと思っていたことが、社会では通用しないことも沢山あるのだと実感するようになりました。

積極的に自分を主張しながらも、周囲のことを考えて行動する習慣を身に付けることで、自分自身に責任を持てる人になりたいと思います。次年度は私にとって、勝負の年となりますが、これまで学んできたことを自信に変えて、向上心を持って頑張ります。



現代ビジネス科
ビジネスコース1年
熊元　里奈
（日南高校出身）

成長したこの一年！

宮崎学園短期大学に入学し、私の中で大きく変わったのは発表に対する意識です。私は、人前で発表することが苦手で、初めて授業で発表をした時は、緊張で手が震えていました。しかし、現代ビジネス科では人前で発表する機会が多く、特に後期には学生が一人ずつ前に出てSPIの問題を解説する授業がありました。自分の番が近づくにつれて不安もありましたが、一方で、上手だと感じる人はどんな所が良いのだろうと考えて見るようになりました。準備の段階で、声の大きさを意識し、どうしたら分かりやすいか考え、アドバイスをもとに改善し、本番に臨みました。この発表を無事にやり遂げたことで、とても大きな自信に繋がりました。これからも、一つひとつの発表の機会を大切にし、苦手意識を克服していけるよう、努力していきたいです。

保育科（幼稚園教育実習前研修）

専攻科（修了研究発表会）

現代ビジネス科（軽トラ市）